

恩徳讃



如来大悲の恩徳は

身を粉にしても報ずべし

師主知識の恩徳も

ほねをくだきても謝すべし

目次

恩徳讃	1
ご挨拶 〈本願寺執行長 安永雄玄〉	3
新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)	5
浄土真宗の教章(私の歩む道)	6
新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)についての消息	7
親鸞聖人御誕生八百五十年 慶讃法要御満座の消息	9
立教開宗 八百年	9
寂如上人を讃仰して	11
法要・行事日程／お西さん(西本願寺)SNS紹介	15
五会念佛作法	17
正信念佛偈	24
「共通勤行」和訳正信偈	29
「院号」をいただくには	33
免物	34
帰敬式	35
ほとけさまのお話・お西さんを知ろう!	36
本願寺の法要行事日程	37
「令和6年能登半島地震災害義援金」募集について	38

2024 (令和6) 年

寂如上人三百回忌法要

4月13日・14日

立教開宗記念法要

4月15日

始祖親鸞聖人が『顕浄土真実教行証文類(教行信証)』を撰述された

一二二四(元仁元)年を浄土真宗立教開宗の年と定め、毎年この春の時期に法要を修行しています。

本年は、この立教開宗記念法要を四月十五日に勤修いたしますとともに、四月十三日・十四日の二日間に、本願寺第十四代宗主寂如上人の三百回忌法要をお勤めいたします。

寂如上人三百回忌法要 立教開宗記念法要（春の法要）にあたって

浄土真宗本願寺派総長

荻野 昭裕
おぎの しょうゆう

本願寺執行長

安永 雄玄
やすなが ゆうげん

本日は、全国各地からようこそ本願寺へご参拝くださいました。

宗門では、宗祖親鸞聖人が一二二四（元仁元）年四月十五日に『顕浄土真実教行証文類（教行信証）』をご撰述になりましたことを浄土真宗の立教開宗と定め、毎年四月十五日には、立教開宗記念法要（春の法要）を修行いたしております。本年は立教開宗から、ちょうど八百年の記念すべき年にあたります。

八百年前、親鸞聖人が本願念仏のみ教えを顕かにしてくださって以来、歴代宗主をはじめ、数多の先人方により大切に受け継がれてまいりました。親鸞聖人が説き示してくださったみ教えに出遇えた喜びをあらためて共々に分かち合いたいと存じます。

さて、今日の私たちを取り巻く環境は、多発する自然災害、世界各地で起こる武力紛争など、人々が抱える問題は山積しています。

どのような時代にあっても、浄土真宗のみ教えは、その時代の灯火として、苦しみ悩む人びとに真実の生き方を示してきました。「世のなか安穩なれ、仏法ひろまれ」と願われた宗祖のお心を受けとめ、次の世代にも繋げられるよう、国内外に向けて、一人でも多くの方にお念仏のみ教えを伝えてまいりましょう。

また、このたびは、春の法要にあわせ、本願寺第十四代宗主寂如上人の三百回忌法要をお勤めいたします。

寂如上人は、江戸時代の初期、本願寺第十四代の宗主として、「正信偈和讃」と「御文章」の開版や、明著堂の整備などにご尽力され、その多くのご事績は今日まで大切に受け継がれております。

本日は、うらかな春のひとときを、本願寺でごゆっくりとお過ごしください。

合掌



新しい「領解文」 (浄土真宗のみ教え)

南無阿弥陀仏
「われにまかせよ そのまま救う」の 弥陀のよび声
私の煩惱と仏のさとりは 本来一つゆえ
「そのまま救う」が 弥陀のよび声
ありがとう といた
この愚身をまかす このままで
救い取られる 自然の浄土
仏恩報謝の お念仏

これもひとえに
宗祖親鸞聖人と
法灯を伝承された 歴代宗主の
尊いお導きに よるものです

み教えを依りどころに生きる者 となり
少しずつ 執われの心を 離れます
生かされていることに 感謝して
むさぼり いかりに 流されず
穏やかな顔と 優しい言葉
喜びも 悲しみも 分かち合い
日々に 精一杯 つとめます



浄土真宗の教章(私の歩む道)

宗名 浄土真宗
宗祖 親鸞聖人
(ご開山)

ご誕生 一七三三年五月二十一日
(承安三年四月一日)

ご往生 一二六二年一月十六日
(弘長二年十一月二十八日)

宗派 浄土真宗本願寺派
本山 龍谷山 本願寺(西本願寺)
本山 阿弥陀如来(南無阿弥陀仏)
聖典 釈迦如来が説かれた「浄土三部経」

「仏説無量寿経」
「仏説観無量寿経」
「仏説阿弥陀経」
宗祖 親鸞聖人が著述された主な聖教
「正信念仏偈」「教行信証」行巻末の偈文
「浄土和讃」「高僧和讃」「正像末和讃」
中興の祖 蓮如上人のお手紙
「御文章」

教義

阿弥陀如来の本願力によって信心を
めぐまれ、念仏を申す人生を歩み、この
世の縁が尽きるとき浄土に生まれて
仏となり、迷いの世に還って人々を教化
する。

生活

親鸞聖人の教えにみちびかれて、阿弥陀
如来の心を聞き、念仏を称えつつ、
つねにわが身をふりかえり、慚愧と
歡喜のうちに、現世祈祷などにたよる
ことなく、御恩報謝の生活を送る。

宗門

この宗門は、親鸞聖人の教えを仰ぎ、
念仏を申す人々の集う同朋教団で
あり、人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を
伝える教団である。それによって、自他
ともに心豊かに生きることのできる
社会の実現に貢献する。





新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)についての消息

本年三月には、「親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」という記念すべきご縁をお迎えいたします。このたびの慶讃法要は、親鸞聖人の立教開宗のご恩に深く感謝し、同じお念仏の道を歩む者同士が、あらためて同信の喜びを分かち合うためのご法要です。また、これを機縁として、特に若い人やこれまで仏教や浄土真宗に親しみのなかった人など、一人でも多くの方々に浄土真宗とのご縁を結んでいただきたいと思っております。

伝道教団を標榜する私たちにとって、眞実信心を正しく、わかりやすく伝えることが大切であることは申すまでもありませんが、そのためには時代状況や人々の意識に応じた伝道方法を工夫し、伝わるものにしていかなければなりません。このような願いをこめ、令和三年・二〇二一年の立教開宗記念法要において、親鸞聖人の生き方に学び、次の世代の方々にご法義がわかりやすく伝わ

るよう、その肝要を「浄土真宗のみ教え」として示し、ともに唱和していただきたい旨を申し述べました。

浄土真宗では蓮如上人の時代から、自身のご法義の受けとめを表出するために『領解文』が用いられてきました。そこには「信心・正因・称名報恩」などご法義の肝要が、当時の一般の人々にも理解できるよう簡潔に、また平易な言葉で記されており、領解出言の果たす役割は、今日でも決して小さくありません。

しかしながら、時代の推移とともに、『領解文』の理解における平易さという面が、徐々に希薄になってきたことも否めません。したがって、これから先、この『領解文』の精神を受け継ぎつつ、念仏者として領解すべきことを正しく、わかりやすい言葉で表現し、またこれを拝読、唱和することでご法義の肝要が正確に伝わるような、いわゆる現代版の「領解文」といふべきものが必要になってきます。そこでこのたび、「浄土真宗のみ教え」に師徳への感謝の念を加え、ここに新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)として示します。

南無阿弥陀仏

「われにまかせよ そのまま救う」の 弥陀のよび声
私の煩惱と仏のさとりは 本来一つゆえ
「そのまま救う」が 弥陀のよび声

ありがとうございます といたいて

この愚身をまかす このままで

救い取られる 自然の浄土

仏恩報謝の お念仏

これもひとえに

宗祖親鸞聖人と

法灯を伝承された 歴代宗主の

尊いお導きに よるものです

み教えを依りどころに生きる者 となり

少しずつ 執われの心を 離れます

生かされていることに 感謝して

むさぼり いかりに 流されず

穏やかな顔と 優しい言葉

喜びも 悲しみも 分かち合い

日々に 精一杯 つとめます

この新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)を 僧俗を問わず多くの方々に、さまざまな機会 で 拝読、唱和いただき、み教えの肝要が広く、ま た次の世代に確実に伝わることを切に願って お ります。

令和五年 一月十六日
二〇二三年

龍谷門主 釋 專 如





親鸞聖人御誕生八百五十年 立教開宗八百年慶讃法要御満座の消息

本年三月二十九日より五期三十日間にわたってお勤めしてまいりました親鸞聖人御誕生八百五十年慶讃法要は、本日をもってご満座をお迎えいたしました。立教開宗八百年のこのたびの五十年に一度のご勝縁に国内外より多くの方々にご参拝いただき、厳肅かつ盛大にご法要をお勤めすることができましたのは、仏祖のお導きはもとより、僧侶・寺族・門信徒など有縁の方々のご懇念のたまものと心より感謝申し上げます。

私たちが浄土真宗のみ教えを確かな依りどころとして生きることができるのは、親鸞聖人が『顕浄土真実教行証文類』（教行信証）を著され、『仏説無量寿経』に説き示される阿弥陀如来の本願名号の真実の教えを明らかにされるとともに、聖人のみ跡を慕う多くの先人方が、み教えに生かされる喜びを今日まで大切に伝えてこられたからに他なりません。

私たちは阿弥陀如来の智慧の光明に包まれ、照らし出されることによって、今まで気づかなかった罪業深重・煩惱具足という自身の姿とともに、如来の広大な恩徳を知らされます。そして、このような私たちが、如来に慈しまれていると同時に私の悲しみを如

来の悲しみとして受け入れていただけれることを信知することで、自身の悪業煩惱を心から慚愧し、少しでも執われの心を離れなければならぬと気づかされます。

それは自分だけの安穩を願うような自己中心的な生き方から、人々の苦悩をともしていく生き方への転換であり、そこから大智大悲という如来のお徳を真実と仰ぎ、それに沿うよう努める念仏者の生き方が開かれてきます。そして、その努め励んでいくままが如来のお徳に促され、ご本願に生かされて生きる姿になるのです。

このたびの慶讃法要を機縁として、あらためて「世のなか安穩なれ、仏法ひろまれ」と願われた親鸞聖人のお言葉を深く心に刻み、これからお念仏を喜び、阿弥陀如来の智慧と慈悲をあらゆる人々に伝えることで、自他ともに心豊かに生きることのできる社会の実現に向け、さらなる歩みを続けてまいります。

令和五年 五月二十一日
二〇二三年

龍谷門主 釋 專 如





寂如上人を鑽仰して

本願寺史料研究所研究員

小林 健太



寂如上人影像（式務部蔵）

本願寺第十四代寂如上人の生涯は、江戸幕府四代将軍家綱・五代将軍綱吉の治世期にあたり、武断政治から文治政治への転換期でありました。寛永十四年（一六三七）の島原・天草一揆の後、国内での大きな武力衝突は発生せず、それまで諸大名・民衆を武力で抑えていた幕府は、方針を転換し社会秩序の安定に注力することとなりました。

寂如上人は本願寺第十三代良如上人の次男として、慶安四年（一六五一）六月二十八日に誕生しました。童名を房曆ふさまろといました。

房曆は寛文元年（一六六一）三月七日に得度し、諱を光常こうじょう、法名を寂如と称しました。この得度は良如上人が病臥したため急におこなわれたものでした。そして得度したその月の十八日から二十八日まで親鸞聖人四百回大遠忌法要が修され、病気の良如上人に代

寂如上人略年譜

慶安四年 (一六五一)	一歳	六月二十八日	本願寺第十四代寂如上人誕生する。
寛文元年 (一六六一)	二歳	三月七日	寂如上人、得度。
		三月二十八日	親鸞聖人四百回大遠忌法要を執行する。
		三月二十八日	良如上人（光円・教興院）示寂により、本願寺を継職する。
二年 (一六六二)	三歳	九月七日	代替わりのため江戸に赴く。
三年 (一六六三)	四歳	二月二日	寂如上人、大僧正となる。
二年 (一六七〇)	二二歳	六月二十九日	経蔵が落成する。
延宝六年 (一六七八)	二八歳	二月二五日	経蔵に「転輪蔵」の額を掲げる。
元禄八年 (一六九五)	四五歳	四月	学林再興。
正徳元年 (一七一〇)	六一歳	三月二六日	親鸞聖人四百五十回大遠忌法要を執行する。
		三月二八日	親鸞聖人四百五十回大遠忌法要を執行する。
享保一〇年 (一七二五)	七五歳	七月八日	寂如上人（光常・信解院）示寂。

わっておもに寂如上人が出席しました。翌年九月七日に良如上人が示寂されたため、寂如上人はわずか十二歳で継職しました。

翌三年十一月に正僧正そうじょうとなり、同七年四月十三日に九条兼晴かねはるの猶子ゆうし（養子）となり、同十二年六月二十九日に大僧正に昇りました。

寛文五年に幕府は、諸宗寺院法度を発布し、仏教各宗の教団組織の秩序化を目指しました。本願寺も、これに対応してさまざまな制度を定め、教団の組織化・僧侶統制などをすすめました。このなかで、とくに重点を置いたのが、聖教の取り扱いです。当時、門末が依用していた聖教は定まっておらず、その統一を図るため、寂如上人は『正信偈和讃』・『御文章』を出版し、貞享三年（一六八六）には本山安置の名号・御影の改訂をおこない、次いで歴代御影の改訂もおこなうなどしました。また、本山が授与していた歴代御影には大小があり、讃文の有無も一定していなかったため、その統一もはかられました。

また、寂如上人は、勤式作法の改正をおこないました。元禄元年（一六八八）に両堂の間の廊下に初めて





寂如上人筆経蔵扁額「轉輪藏」

喚鐘を掛け、開場の合図としました。翌年には正信偈の和讃念仏の坂東節を廃止し、八句念仏和讃としました。また寂如上人自ら「讃仏講式」を著し、声明を考究するなどし、本山の法式を改めました。

元禄八年二月、寂如上人は学寮（龍谷大学の前身）の再興に着手し、学林と名を改めて四月に落成しました。学寮は寛永十六年（一六三九）に、良如上人により創設されましたが、承応二年（一六五三）に端を発する法論（承応の鬨牆）が原因で、明暦元年（一六五五）七月、幕府の命により破却されました。それ以来、幕府との長い交渉の結果、ようやく再興されることとなったのです。元禄八年四月、学林の安居として能化の知空が「楞嚴経」を講じました。安居は一時の中断をはさみながらも現在に至るまで続けられており、多くの僧侶が研鑽を積んでいます。

元禄十三年十二月二十七日には日常の食事は一汁二菜とすること、衣服の新調をつつしむこと、外出のさい人数を減らすことなど、質素儉約をみずから実践しました。

寂如上人は、書をよくたしなまれました。宝永八年



寂如上人和歌懐紙（本願寺蔵）

（二七一）三月十六日、親鸞聖人四百五十回大遠忌法要にあたって「轉輪藏」と染筆した額もその一つです。本願寺に現存する経蔵は、延宝六年（一六七八）に完成しました。納められている大蔵経は、幕政に参画した南光坊天海が木活字による大蔵経刊行を企図し、慶安元年に完成させたものです。本願寺はこれを購入し、経蔵を建築して、良如上人十七回忌にあたる延宝七年に大蔵経を納めました。内部は回転式書架の転輪蔵で、四面は伊万里焼の腰瓦で飾られており、その腰瓦の製作は寂如上人の命によると伝えられています。

上人は学問を好み、聖典の研鑽に励み、みずから講じてもいます。聖典だけではなく、漢籍・詩歌文筆にも心を寄せ、当代の学者と広く交流しました。寂如上人は享保十年（一七二五）六月二十八日、重病となり、ついに七月八日に七十五歳で示寂されました。諡号を信解院といいます。

寂如上人の治山は実に六十三年におよび、歴代上人の中でも最長でありました。





法要・行事日程

13日(土) 寂如上人三百回忌法要

総会所	御影堂	総会所	御影堂	両堂
17時00分	14時00分	13時00分	6時00分	6時00分
お西さんの土曜法話(40分間) 本願寺派布教使 高島 幸博師(大阪府)		寂如上人三百回忌法要 「五会念佛作法」P.17 引き続き(特別布教)(20分間) 本願寺派布教使 葦原 理江師(熊本県)		晨朝 晨朝布教(晨朝) 清水 朋行師(福岡県) 帰敬式(午後の部) 常例布教(30分1席) 昼座 葦原 理江師(熊本県)

▶LIVE

YouTubeチャンネル「お西さんの法要行事」で全日とも▶LIVE配信いたします。



15日(月) 立教開宗記念法要

総会所	御影堂	阿彌陀堂(御影堂)	御影堂	両堂
15時00分	14時00分	13時00分	10時30分	6時00分
常例布教(30分2席) 昼座 葦原 理江師(熊本県)		立教開宗記念法要 「共通勤行」和訳正信偈 P.29 引き続き ご門主様ご親教 手話通訳		縁儀 晨朝 晨朝布教(晨朝) 葦原 理江師(熊本県) 帰敬式(午前の部)

▶LIVE

お西さん(西本願寺)SNS紹介

お西さん(西本願寺)公式ホームページ

<https://www.hongwanji.kyoto>

本願寺のさまざまな情報を随時発信しています。ご参拝にお役立てください。



お西さん(西本願寺)公式X(旧Twitter)

@nishi_hongwanji

法要行事のご案内など本願寺の「今」をお伝えしています。フォローをお願いします。



お西さん(西本願寺)公式Instagram

nishi_hongwanji

本願寺境内の四季折々の風景などをお届けします。フォローをお願いします。



お西さん(西本願寺)公式note

https://note.com/nishi_hongwanji

仏教や宗教に関するコラムやお西のお坊さんなどへのインタビューまで、本願寺にまつわる情報をお届けします。

